

2021年度 新入生へのメッセージ

新入生のみなさん。入学おめでとうございます。

昨年から世界各地に広がったコロナウイルスの猛威は、まだ終息しておらず、「密を避ける」ために、今年度の入学式も、このように午前中と午後、二部に分けて開催をすることになりました。沖縄大学は小さな大学ですが、それでも全学部の学生が一堂に会する機会は、入学式と卒業式ぐらいしかありません。ですから、そうしたせっかくの機会が、このような形になったのは、少し残念な思いもあります。しかし、できなかったことに目をむけるのではなく、できたことに目をむけ、その先をめざして歩いていくという姿勢をたえずとりたいと思います。

沖縄大学は私立大学です。そして、私立大学には、必ず始原にさかのぼる物語があります。みなさんにとって、この沖縄大学は気づいたときにはすでに「そこ」にあった存在だと思えます。しかし、誰かが、ある時に思い立って設立しなければ、「そこ」に存在していない…それが、私立大学という存在なのです。沖縄大学の創立は米軍統治下の1958年のことです。創立当時、沖縄には米国の軍政府令によって設立された琉球大学があったのみでした。沖縄大学を創立したのは、実業家の嘉数昇先生です。米軍統治下にあり、本土への渡航もままならない中、尚学の志に燃える青年たちに学問の場を提供したいという先生の強い思いをもって、沖縄大学は創立されました。そして、本学の場合、その思いをつなぐ人々がいたということも忘れることができないことです。沖縄大学は、沖縄の日本復帰の時期、日本の大学の設置基準に合わないという理由から、一度、廃校の危機にさらされています。しかしその危機を乗り越えるために、さまざまな努力をささげた人々がいました。大学を立ち上げた人がいて、大学の存続に力を果たした人々がいて、今、皆さんが集う、この場が「ここ」にこうしてあるわけです。本館の一階には、創立者、嘉数昇先生の銅像や、沖縄大学の歴史を記したパネルが展示されています。ぜひ、何かの折に、そのコーナーに立ち寄ってみてほしいと思います。

大学という場には、学部、学科によって特徴のあるさまざまな授業があり、これからみなさんは、どんな授業に登録するか、自分で選んで決めていくわけです。大学には、共通科目という、どの学部の学生も受講できる授業もあります。私もそのうちの一つ、「沖縄大学論」という授業を担当しています。「沖縄大学論」というのは、ちょっと変わった名前の授業ですね。いったい、どんなことを学ぶ授業だと思われるのでしょうか。この授業には、毎回、異なった講師の方をお呼びして話をさせていただいています。沖縄大学という、みなさんが4年間通うことになる場がどんな場であるのかを、もっときちんととらえられるようにと、先に少し紹介したような、大学の歴史について話を聞く回もあります。そして、何人かの本学の卒業生もおよびしてお話をうかがうことにしています。昨年度は、琉球朝日放送のアナウンサーで同窓会長の棚原勝也さんや、FC琉球でサッカー選手として活躍されている上原慎也さんのお話をうかがいました。それぞれに受講した学生たちに感銘をあたえるお話でした。

授業におよびした湊直さんという卒業生は、ほとんどの方が名前を知らないと思います。でも、湊さんの話も、同様に様々な思いを掻き立ててくれる内容でした。湊さんは、福祉文化学科に入学後、ふと留学を決意します。しかも、英語は大の苦手だったのにもかかわらずです。1年間の語学留学を経て帰国、卒業後は県内の一般企業に勤めることになりました。そのとき、採用面接の内容が「これから海外に事業を展開するけれど、海外に行くことができるか?」というものだったそうです。湊さんはこれに二つ返事で答えました。そして入社後、企業が連携していた国際協力事業でサモアという太平洋上の小さな島国に派遣されます。ここでも、語学ができなくて、本当に苦労したそうです。でも、今や、その一般企業の海外事業部門の責任者として、太平洋の島国との連携を様々に探っていると楽しそうに話しをしてくれました。

「英語が苦手でも、留学したってかまわないんだ」

湊さんの話を聞いた何人かの学生からは、こんな感想の声が聞こえてきました。自分がなにに適しているかなんて、なかなかわかりません。はたまた、自分が適していなくたってやらなければいけないことや、やれることはあると思うのです。ちなみに、私も人とのコミュニケーションが苦手だと自認しているのですが、なぜか教員を仕事としていて、今はこのように学長の任にあります。

みなさんは、大学で、新しい先生や、新しい友達、先輩方にたくさん会うと思うのです。加えてみなさんは、まだ出会う人々がいます。それが、新しい自分です。これまでそんなことをやったことがなかった自分。あらたな考え方をしている自分。そんな自分に何度も出会えるのではないかと思います。

みなさんにとって、沖縄大学が、多くの新しい自分と出会えるような時間となることを願っています。一緒に健闘していきましょう。